

新地駅周辺まちづくり事業・エネルギー事業の概要

新地駅周辺市街地復興整備事業 持続可能な暮らしのための安心安全な拠点づくり

地震・津波の教訓を踏まえ、道路や公園・広場等を面的に整備する土地区画整理事業を行い、公共施設・商業施設・住宅等を集約し、防災拠点ともなる中心拠点とします。

- **基盤整備**
駅周辺を防災上必要な高さに嵩上げしました。
- **津波防災拠点施設、津波復興拠点支援施設の整備**
防災拠点を有する地区とするために、防災センター等を整備しました。
- **公共空間の高質化**
駅前広場や公園、駐車場、植栽、照明などを整備し、使いやすい駅前とします。
- **町有地の活用**
駅前の町有地を民間事業者へ賃貸、民間テナントの入居する複合商業施設等を整備します。

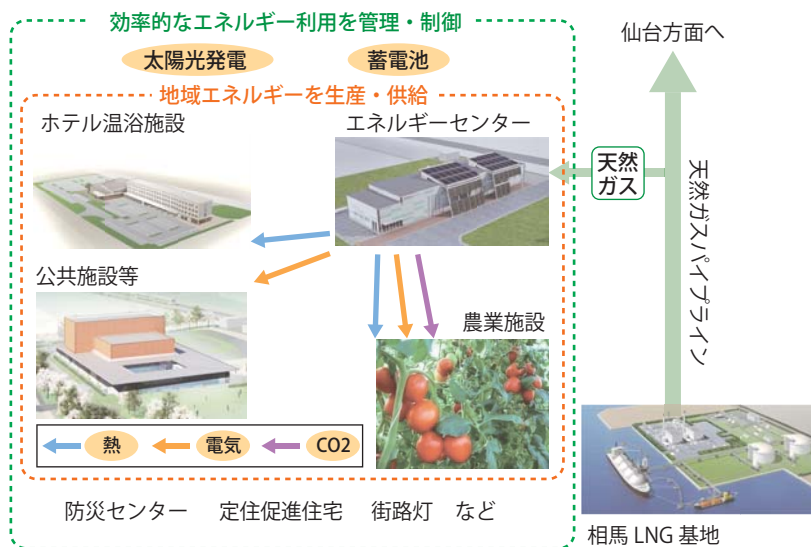


新地町スマートコミュニティ事業 地産地消型エネルギー利用を核とした復興まちづくり

低炭素・省エネルギー化を目的に、相馬港から運ばれる液化天然ガス（LNG）を活用して熱・電気・二酸化炭素（CO2）を駅周辺施設へ供給し、周辺施設の効率的なエネルギー利用を管理します。

- **地域エネルギーセンターの整備**
エネルギーセンターを整備し、天然ガスを活用して熱・電気・CO2を生産し、周辺施設に供給します。
- **エネルギーマネジメント**
災害時にも活用できる太陽光発電設備と蓄電池、ソーラー街路灯を整備します。
駅周辺のエネルギー利用を制御するシステムを構築し、需給バランスを最適化します。

※天然ガスとは、CO2の発生が少ない、地球にやさしいエネルギーです。輸送のために天然ガスを冷却・液化したものをLNGと呼びます。



新地駅周辺まちづくり ニュース

新地町の新しい拠点づくりの最新情報をお伝えします！

創刊号

発行：新地町
2017. 12. 05

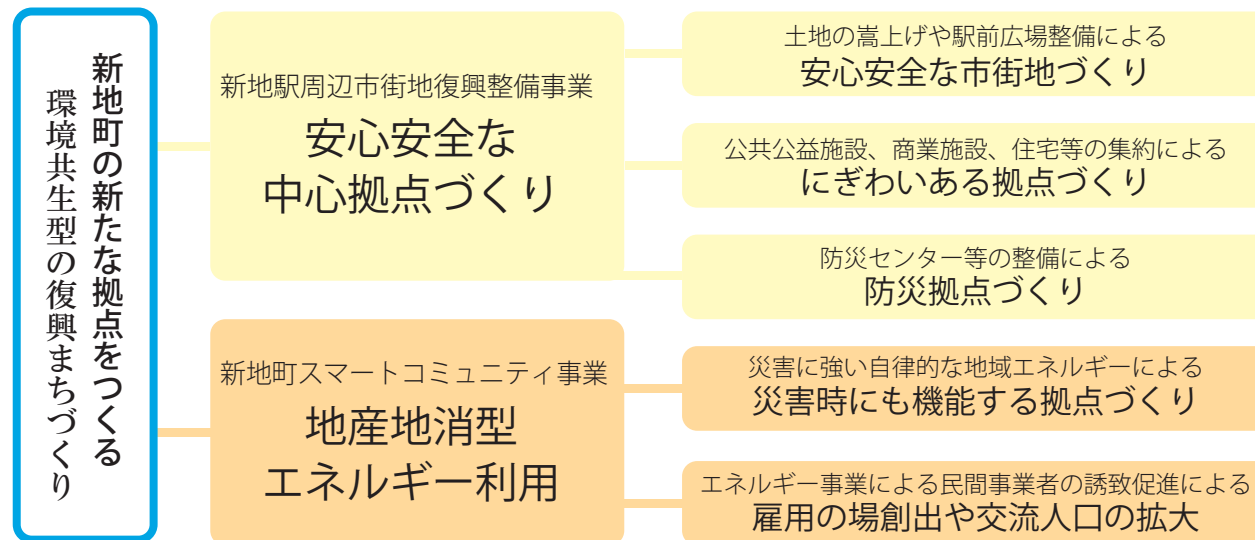


新地駅周辺で進める町の新しい拠点づくりの概要をお伝えします

新地町では、第5次新地町総合計画後期基本計画に位置づける環境共生型の復興まちづくりの実現に向けて、土地の嵩上げなどの基盤整備や公共施設整備などの復興まちづくりと一体的に、地域でつくられるエネルギーを地域で効率的に使う地域エネルギーシステム「スマートコミュニティ事業」に取り組んでいます。

本地区では駅周辺地域を先進モデルとして構築し、将来は町内の公共施設や住宅でも地域エネルギー活用を目指していきます。

[新地駅周辺まちづくりの基本的な考え方]



「新地駅周辺まちづくりニュース」は、新地駅周辺の新たな拠点整備事業の過程において、事業内容や整備される施設の紹介、現在の進捗状況などを、事業完了にむけて定期的に発行し、お知らせしていく予定です。
編集は、国立環境研究所の協力のもと進めております。

発行予定

- 創刊号 [H29.12] 駅周辺まちづくり・エネルギー事業概要
- 第2号 [H30.4] スマートコミュニティ事業とは？
- 第3号 [H30.8] 駅周辺にぎわいづくりプロジェクト
- 第4号 [H30.12] 新しい拠点完成！いよいよまちびらき！
※発行回数や時期は変更になる可能性があります

新地駅周辺まちづくり・エネルギー事業の全体計画図

エネルギーセンター

液化天然ガスを活用し、地域エネルギー（熱、電気、CO2）を生産します。地域内は災害時にも対応できる自立した電源システムとなります。見学対応型の施設となります。

地域エネルギー供給管

エネルギーセンターで生産した熱・電気・CO2を地区内の施設に供給します。

- 天然ガス専用導管
- 熱導管（熱）
- 自営線（電気）
- 二酸化炭素（CO2）供給管

スマートアグリ（農業）施設（予定）

二酸化炭素（CO2）を効率良く供給することで光合成が活発化し、野菜や果物の収量や品質が向上します。液化天然ガスを燃料にして、電気、熱を製造した際に発生するCO2を、特産物づくりや観光等に活かします。

スポーツ施設

フットサルやテニスができる屋内スポーツ施設を設置します（2面）。雨天でも利用できる施設となります。

整備完了後のまちづくり

地域の方々が気軽に訪れ、施設や店舗を利用し、また地域外からも来訪者がある、にぎわいの絶えない中心拠点を目指し、施設整備完了後の持続的なまちづくりについても取り組んでいきます。

中心拠点としての「にぎわい」づくり

年間を通して、来訪者の絶えない地区を目指します。施設ごとの活発な利用を促進するとともに、地区全体でのイベント等を企画・実施できる仕組みを作ります。多くの団体や町民が参加し、既存のイベント等と連携し、にぎわいを作り出します。



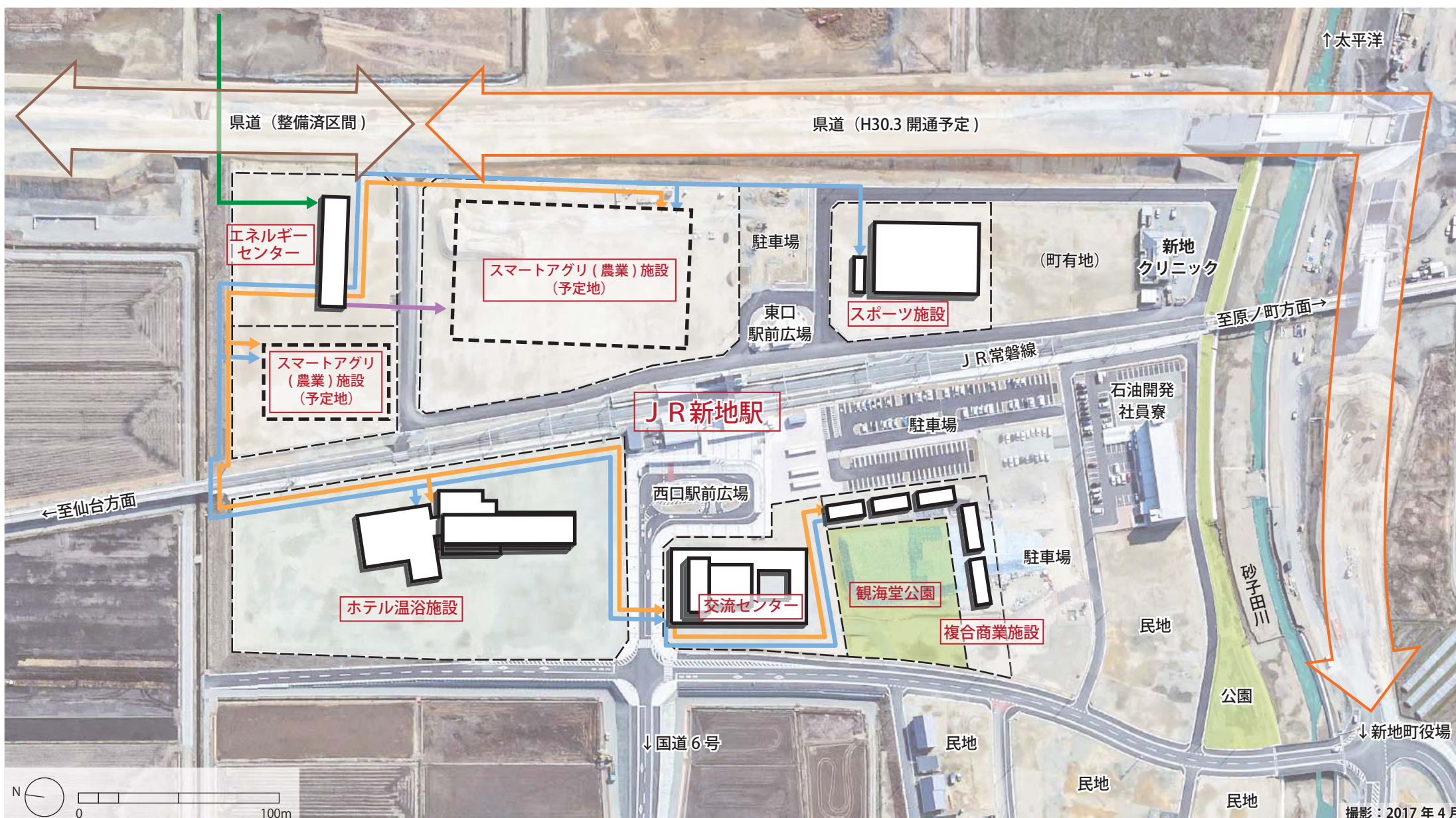
交流センターの設計に際して、文化協会・新地高校生等と使い方についての意見交換を行いました。

エネルギー事業を活かした「環境共生」まちづくり

地域エネルギーの生産・供給の流れをわかりやすく紹介し、小中学生の学習や町内外からの見学者に対応可能とします。中心拠点を活かし、環境未来都市としての取り組みを一層充実していきます。



国立環境研究所の協力のもと、尚英中学校で環境とまちづくりを考えるワークショップを実施しました（H26）。



ホテル温浴施設

民間事業者によるホテル（約100室）および温泉が計画されています。温泉は地下を掘削し、地中から湧き出る源泉を使った天然温泉です。

交流センター

コンサートや演劇などを上演できる多目的ホール（約450席）、音楽バンドなどの練習ができるスタジオ、会議室などで構成されます。地域の方々の活動や交流の拠点となります。

観海堂公園

震災前に観海堂のあった敷地で福島県の史跡として指定されています。公園として整備され、屋外イベントなどにも利用できる場となります。

複合商業施設

民間商業テナントが入居する施設を町で整備します。チャレンジショップや起業支援の場の併設を計画しています。

事業スケジュール

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
● 新地駅・駅前広場	→	→	→ 現在
● 防災センター（6号沿い）	→		
● 宅地整備	→	→	
● 公園など	→	→	→ 順次供用開始
● 交流センター			→
● 複合商業施設			→
● スポーツ施設		→	
● エネルギーセンター			→
● ホテル温浴施設			→